

2023 年度 学校関係者評価委員会 議事録

2023 年 5 月 29 日(月)開催

学校法人 滋慶学園
北海道エコ・動物自然専門学校

学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校

学校関係者評価委員会議事録

開催日時 令和4年6月6日(月) 10:30~12:00

開催場所 北海道恵庭市恵み野西5丁目10-4 北海道エコ・動物自然専門学校

出席委員等

学校関係者評価委員

卒業生代表	白倉 慶大 (株式会社ジョイフルエーカー ペットワールド センター長)
保護者代表	平池 恵 (在校生保護者)
高等学校関係者	田中 一志 (北海道恵庭北高等学校 進路指導部長)
地域関係者	武石 明菜 (ドッグサロン Wan point 代表)
業界関係者	樋原 均 (株式会社ペットハウステン・テン 代表取締役)

(事務局)

佐藤 俊	学校法人滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学校長
正垣 雅規	学校法人滋慶学園 理事
小川 昭久	学校法人滋慶学園 運営本部長
三瓶 晃司	学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 事務局長
佐々木 拓司	学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 教務部長
門田 英敏	学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学科長
山田 由香	学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学科長
荒木 周平	学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 コンプライアンスセンター

会議の概要

- ・ 学校長挨拶
- ・ 議長選出
- ・ 各委員の紹介
- ・ 2022年度の自己点検・自己評価内容について 各項目説明
- ・ 質疑応答

項目については以下の通り

1. 教育理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 教育成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守

1 0．社会貢献

1 1．国際交流

議事の経緯要領とその結果

定刻となり開始する。

卒業生代表の白倉委員が業務の都合がつかず、欠席する旨の報告がされる。

議事に先立ち学校長佐藤より各委員へ挨拶を行う。

「出席いただきありがとうございます。」

2022 年度の教育活動の評価をお願いしています。合わせて今年度の学校運営にもご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。長い時間の会議となりますが、何卒よろしくお願いいたします。」

議長の選任を行う。樋原 均様が規定により議長に推薦され、満場一致承認された。

運営本部長小川より、この会の趣旨の説明を行う。

樋原議長の下、議事審議に入った。

自己点検・自己評価報告

※事務局より、自己点検・自己評価シートとモニターを使用して説明を行う。

1. 教育理念、目的、育成人材像
2. 学校運営

滋慶学園グループについての説明、グループのミッションの紹介

入学案内を地域貢献プログラム「ECO - Academy」について説明。夏休み小学生対象の職業理解のイベントを行うなどを取り組んだ。また保全センターの参画をしている。

学校運営についてはグループ 5 か年計画をもとに事業計画を作成、コミュニケーションについては月 2 回で職員全員参加の会議を行い、一人ひとりの学生状況等の共有を行っている。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

3. 教育活動
4. 教育成果

教育数字について説明。2022 年度は授業アンケートを実施できた。評価としては 2020 年度と比べて微増している。職員研修も充分に行うことができた。中途退学は 2021 年度 5 名だが 2022 年度は 10 名となってしまった。内訳は精神的な疾患が原因は 8 名となる。スクールカウンセラー等を配置し対応しているが、退学防止にはつながらなかった。

樋原委員より退学する学生の特徴について質問があった。

事務局佐々木より説明を行った。学校内の人間関係で悩まれていることが多いことと、人間関係トラブルというより皆と一緒にいることがつらい学生が多いように見受けられると回答。

樋原委員より学校内のフォローをさらに充実をお願いしたいとの旨の意見があった。

5. 学生支援

6. 教育環境

学生支援と教育環境について、課外活動の支援体制は充実できず説明。道内のペットイベントにボランティア派遣を行った。動物飼育学科は6月に国内の著名な動物園、水族館を訪問する国内研修を実施したことを報告。総合ペット学科、動物看護師学科も2月に関西の保護施設等へ見学旅行を行ったこと報告する。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

7. 学生の募集と受け入れ

8. 財務

9. 法令の遵守

財務状況等については本校の web サイトに掲載している旨報告する。教育の充実が図られているため、入学者も増加し、財務状況も好転していると考ええる。

法令の遵守についても情報公開のページ内で個人情報保護対策等も含め、取り組みを伝えている。

学生募集活動は昨年対比 25%増となる。要因としては新学科設立し、14 名の新規入学生を受け入れた。さらに総合ペット学科を3年制に移行し、パートナー犬制度を導入した。すべての学生寮もペット飼育可にした。積極的に学科のイノベーションを行っている。

しかしながらペットを暮らすことは自分の時間を犠牲にすることも、入学前に十分に伝えている。

樋原委員より。パートナー制度について、現状は犬のみかと質問。

事務局三瓶より現状は犬のみとなりますと回答。

樋原委員より。パートナー犬制度は対象入学生今年度何名かと質問。

事務局山田より 56 名と回答する。

樋原委員より。パートナー犬の飼育環境はいかがかと質問。

事務局山田より、動物愛護法の基ついた犬舎を用意し、今後に向けて現在も増築中。

休憩もできる施設とし、本校中庭及び隣接する公園にも犬の運動のため使用する旨を逐次申請し、環境を整えている。また近隣住民に不安や迷惑が掛からないよう配慮もしていること回答した。

10. 社会貢献

11. 国際交流

地域貢献としましては地域貢献プログラム「ECO - Academy」を推進していく。その中で夏休みに小学生を対象としたお仕事体験プログラムが大好評であった。国際交流についてもコロナ禍等が収まり安全な海外渡航が叶った場合はすぐにでもご案内できるよう準備を行っている。代替として今年度は本校の卒業生でハワイにてトリミングサロンを開業している方とのインターネット会議システムを利用した特別委講義を行った。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

最後にまとめの質疑応答にて

樋原委員より。トリマーは非常に大変な仕事だと考える。依然と比べきつい言葉での従業員への叱責は現在の若い方には厳しく感じるようだ。今後は職種に見合う対価を考えていきたいと意見を頂く。

田中委員より。専門学校を希望している生徒については6月に進路が決まるため指導しきれない部分がある。適性が見極められない現状がある。本校にそのような学生がいるかと質問。

事務局佐々木より。ミスマッチが発生することは否めない。実際に生き物を飼うと、義務感に感じてしまう学生が一定数いる。本校ではオープンキャンパスや入学案内には耳当たりの良い言葉を極力排除している。また犬などを飼うにも様々な契約書等の書類を作成や記入してもらい。責任感の醸造をしていると回答

田中委員より。昨年まで高校ではコロナ過で些細な体調不良等も欠席を認めることが増えてしまった。学生指導で迷惑をかけていないかと質問。

事務局佐々木より。欠席も確かに多いと感じる。そのような事情があった事承知したい。

事務局小川より。本校はグループを挙げて転校転科制度を用意している。この制度の利用学生を追跡すると6割ほど完遂し、卒業、就職までできている。また欠席者については全国的に増えている状況であると回答。

以上で本日の議事を終了したので議長は閉会を宣言した。